

第2回モノづくり振興部門会議録

日時：令和2年10月16日 10:00～11:30

場所：ZOOM

出席者

○中小企業振興会議モノづくり部門会議委員

出席委員：芦塚委員、大塚委員、奥村委員、草場委員、柳山委員

欠席委員：松尾委員、本多委員

○事務局

太田モノづくり支援室長、山口モノづくり支援室次長

間所モノづくり支援室主任、津田モノづくり支援室主任

開会

1. はじめに

○今後のスケジュール及び次回の書面開催について。

2. モノづくり振興部門会議提言について

○事務局からモノづくり振興部門会議提言案について説明

委員：全体的に抽象的すぎる。4つの柱はまず絞るべき。最優先は高付加価値と販路開拓に取り組むべき。医工連携は良い。大学との連携。製品化。単純に町工場がデザイナーと組んで売れるような商品企画、それを製造工場が作る。それをどう売るのがかというかけ橋が抜け落ちている。燕三条などは最終製品まで製造している工場が多く売り方だけ考えればよいが、東大阪は一部分の加工しかしておらず、セルフプロデュースがし辛い。高付加価値化は販売方法のデザイナーと組む以前にブランディングを構築して、BtoCにどうつなげるのかを専門の人と組むべきだ。東京などの展示会に出ることで生産性が落ちるという現場からの声があったというが、そういう企業は今後生きていけない。社長自ら展示会で自分の声で伝えるべきだ。バイヤーの客足は今年は減っているが、社長自らセールスするのは根本的に当たり前の話である。下手でもよいからやるように市は指導すべき。

部会長：オンライン展示会に何を求めるかということで意見をいただいた。支援施策としての絞って助成を増やすべきではないかという声が以前にもあった。

事務局：重点的にという意見、考え方として選択と集中が大事と思う。一方、ほかの柱、例えば操業環境というのも大事ではあるので進め方は検討したい。

委員：どの項目を置いておくということではなく、優先順位をつけようということ。BtoBは軒並みダメになってきている。社長は何を考えているか、販売方法下請けから脱却とかそういう社長が多い。ピンチはチャンス。デザイナーとの連携、どう売るか、会社のブランディングという考えが抜け落ちている。シャネルならハードとブランドは両輪。東大阪はブランドが抜け落ちている。東大阪というまちの見えない部分のブランディングをできる人はいる。企業が作ったものを売り切るくらいでないといけないと意味がない。

部会長：4つの柱はメリハリをつけたほうが良いという意見であった。

委員：工場が潰れてしまえば人材育成や操業環境は関係ない。「会社を残す」ことに注力すべき。これからの四半期で業績が悪化するところも出てくる。そういったことを含めて考えなければならない。

委員：前回からコロナで世の中が変わっている。コロナ禍においては迅速な対応を求めるよう市長には言いたい。危機的な状況が迫っている。雇用調整助成金も12月までの延長となっている。年明けには大量解雇に陥ってしまう恐れがある。短期的にも市はどのように支援していくのか。八尾は15%以上売り上げが下がれば支給される補助金もある。是非はあるが、東大阪はどう対応するかというのは気になるところ。3月でコロナがどうなるか。府の都市計画は去年から議論されている。まだインバウンドが増えることを前提とした都市計画になっており、いかに迅速に対応できるかというのが大切である。（支援施策に）優先順位をつけるのは異論ない。高付加価値化でいつも悩むのは、モノづくりの会社で括ることだ。メーカーとしてやっていくのか、付加価値をつけるのか、展示会でも加工の展示をすべきか、製品の展示をすべきか。「絞り」、「削り」（等の製造技術）のカテゴリでメーカーを紹介してはどうか。イプロスと協力して東大阪特集もありだろう。（技術分野によっては）枝葉も別れる。操業環境という観点では、現状は休業しているので工場は静かであるが、（仕事を）進めていく中で工場は操業が忙しくなっていく。必ず揉め事は増える。どう布石を打っておくかというのは次年度くらいで考えるのか。

部会長：委員の意見と重なるが。短期的な支援策はいかがか。

事務局：緊急事態宣言下での支援として設備投資の支援を行った。モノづくり補助金の採択者は遠慮いただき、幅広く支援できるようにしている。ただやみくもにではなく、先端設備等導入計画の認定を受けたものに限っているが、補助先に仕事が増えて、市域全体に舞い込む仕事を増やすべく実施した。

部会長：どちらかという中長期的視野を持ったものかと考える。八尾市のような対応は東大阪では検討されなかったのか

事務局：意見は各方面からいただいた。各自自治体の考えというものがあると思うが、議論の中で全企業に一律で10万円を給付する施策も考えたが、お金よりも設備への支援を優先すべきであると議論がまとまった。そして限りある予算の中で設備投資

の補助金という結果に至った。

部会長：企業自体をサポートするのではなく、従業員の雇用を維持するという支援もあったかと思う。経営を続けてもらうという意味で1, 4をとという意見だが、メーカーを支援、加工屋さんというので売り先確保の支援どうするのか。

委員：(支援対象企業が)加工屋かメーカーなのかで支援施策が異なるというのはそのとおり。戦略が違う。燕市の企業も皆悩んでいる。(燕市は)工場の祭典の中止を春に明言した。秋の燕三条の工場の祭典を中止した代わりに(企業)それぞれが情報を発信している。(今回の審議会の資料の)情報源を中小企業白書から出している段階で考えが浅い。ナンセンスだ。会議の前に戦略(を立てる)ならば抽象的な(概念を)を具体的(な取組み)に落としこむのは大事であるが、戦略が無いまま(物事を)進めるのはダメ。経済を回すまでに現場に足を運んでの意見交換が少ないのではないか。八尾市はみせるばやおに頻繁に集まって意見交換を実施している。市と工場が友達になっている。SEEDに集まってもいいと思う。関わり方が希薄でこんな会議の時間がもったいない。白書を読むよりも現場の意見を聞いたほうがよい。

部会長：繰り返し委員からはご発言あるが実現できていない。今まで通りこのように会議をしていることに意味はない。意見交換の場を今すぐにでも設けてもよいのかと感じるがいかがか。また、東京進出のことを教えてもらえるか。

委員：自社のブランドを立ち上げているが事業の柱になっていない。育てるのに時間が掛かる。時間をお金で買うという手段はある。「売る」ということではセメントプロデュース然り、そういった人の顧問料というのは大きい。売れるものをつくるのではなくどうやって売るかを勉強することが抜け落ちている。メーカーが売るための手段、加工屋の売るための手段。(燕市では)工場の祭典が無くなった代わりに丁寧な動画を配信している。インスタグラムで見られる。見たいと思うような動画構成である。(動画が)町工場に代わって広報をしている。東京はモノづくりを欲しているが工場をどう検索していいのかわかってない。東京は東大阪を知りたがっている。アンテナショップの感覚でやっている。デザイナーと(企業を)繋ごうと(思い)自分は仲介を行っているが本当は市が行ってほしい。

部会長：これをどう提言に盛り込むか。日常的に情報交換するような動きをしていかないといけない。また意見交換させてもらえたら幸いである。提言にあたっては白書を模したような形ではなく、いかに盛り込むかが大切である。

委員：提言だと4つの柱が限界。全国の零細が廃業を決意。その仕事が増えている。自社でも下請けをやっていたが今まで頼んでいたものを残存市場に集めている。どう情報発信を行うか。どういう形でSNSを用いるのか。市はどうか。零細企業の廃業情報はなかなか資料がない。散歩すれば見つかるが、掴めていなければ見つけにくい。

部会長：東大阪商工会議所がアンケートをやっている。

委員：モノづくりのネットワークを確保するのが肝要である。メルマガが届かなくなれば廃業の状況をつかめるのではないか。問題を掴みそれをもって提言に繋げてはいかがか。小さな企業はデジタル化が進んでいない。もうしんどいと廃業する。世代交代が拍車をかけて進む。ZOOM 等を多用してたくさんの人を取り込むような情報源を確立するというのが有効と考える。それぞれの企業がやる気を出すということも大事である。コロナの長期化は予想していなかったが、やる気を起こさせるような情報提供を充実させるというのがポイントではないか。基本に戻って未来を考えるというのが大事なのではないか。足元を見つめなおすというのがポイントだ。

部会長：今すぐにできることを言ってもらっている。形式的な提言を作る労力があればできるはずだ。

委員：時間が掛かる戦略と今すぐできる戦略がある。今すぐは工業と商業。11月21日のこーばへ行こうのコンセプトは工と商。東大阪の市民ではないが従業員は布施で降りてランチを食べる。近隣の飲食店で使える割引制度を創設し経済を回すというのはいかがか。もう一つ思いついたのは修学旅行。観光。(今は)遠方に行かなくなっているようだ。地元をもっと知ろうという流れになっている。ターゲットとして修学旅行に対してアピールする戦略はどうか。事業承継は人を雇って育てる時間がない。今すぐに承継したい。会社が会社を引き継ぐ戦略はある。エントリー制で会社を引き継ぎたい人のマッチングサイトを市で運営するのはいかがか。

事務局：倒産とか廃業のデータを取ることを進める。事業承継の課題があると思うが、市としてすぐに検討して考えてまいりたい。意見交換の場も検討してまいりたい。

部会長：さっそく行ってみたいはいかがか。提言を離れた部分が重要かと考える。

終